

## リスクアペタイト・フレームワーク (RAF)

### リスクアペタイト・フレームワークの位置づけ

〈みずほ〉のリスクアペタイト・フレームワーク (RAF) は、お客さまの実需に焦点をあてた適切なリスクテイクとソリューション提供を通じて競争優位を確立し、持続的かつ安定的な収益確保による企業価値の向上を実現し、公共的使命を全うすることを目指しています。

この目的を達成するために、中期経営計画や業務計画 (業務計画等) の策定において、リスクアペタイトを明確にしたうえで戦略・施策や資源配分・収益計画を決定し、期

中においてその運営状況をモニタリングする等、戦略とリスク管理の一体運営を通じたリスク・リターンの最適化を行っています。

また、RAFはリスク・ガバナンスの中核をなすものであり、みずほフィナンシャルグループでは、RAFに関する基本的事項、ならびにRAFの運営態勢および具体的なリスクアペタイト等を取締役会が決定し、それをリスクアペタイト・ステートメント (RAS) として文書化しています。

### リスクアペタイト・フレームワークの運営

#### リスクアペタイトの策定

〈みずほ〉のリスクアペタイトは、リスクテイクに関する基本的な方針を定めたリスクアペタイト方針と、この方針に基づいて定量的な水準を定めたリスクアペタイト指標で構成しています。

リスクアペタイトの策定においては、はじめにマクロ経済環境・規制環境・競争環境等の外部環境に関する足元の状況や将来見通しを経営で議論し、これを組織内で共有するためのメインシナリオを設定しています。さらに、景気後退や金融市場混乱等の当グループに悪影響を及ぼす可能性があるリスク事象を経営で議論し、リスクシナリオを設定しています。

次に、これらの外部環境に関する認識を踏まえてリスクアペタイト方針を策定し、この方針に基づいて戦略・施策

を具体化し、経営資源配分や収益計画を決定しています。また、〈みずほ〉の企業価値の維持・向上に不可欠である資本力・収益力・流動性等について、当グループ全体のリスクアペタイト指標として普通株式等 Tier1 比率、ROE、LCR 等を選定し、定量的なリスクアペタイト水準を設定しています。

さらに、戦略の推進主体で顧客セグメント別に設置されたカンパニーにもリスクアペタイト指標を設定し、当グループ全体のリスクアペタイトの実効性を確保しています。

カンパニーは、当グループ全体のリスクアペタイト方針やカンパニーごとに設定されたリスクアペタイト水準を踏まえて、それぞれの業務計画等を策定し業務運営を実施しています。

#### 〈みずほ〉のRAF運営体制

監督	取締役会	・RAFに関する基本的事項やRASの決定 ・当該決定に基づく経営の業務執行の監督	
	監査委員会	・RAFに関する取締役および経営の職務執行の監査	
	リスク委員会	・リスクガバナンスに関する取締役会への助言、経営への提言	
経営	執行役社長	経営会議	
	経営ガバナンス高度化委員会 【委員長：グループCEO】	・リスクアペタイト方針を策定 ・リスクアペタイト指標・水準を設定 ・RASを策定	・リスクアペタイトに合致した業務運営の実施 ・業務部門へのリスクカルチャー浸透
	リスク管理委員会 【委員長：グループCRO*1】	・RAFに関する運営状況をモニタリング	
	バランスシートマネジメント委員会 【委員長：グループCFO*2】	・バランスシートマネジメントを中心としたリスクコントロールや リスクテイクに関する戦略の策定・推進	

※1. リスク管理グループ長 ※2. 財務・主計グループ長

## リスクアペタイトのモニタリング

当グループは、策定したリスクアペタイトの実現に向けて、四半期ごとにまたは必要に応じて随時そのモニタリングを実施しています。具体的には、当初設定したシナリオと比べた足元の環境変化の状況や、リスクアペタイト方針およびリスクアペタイト水準と比べた足元の戦略遂行や自

己資本水準等の状況についてモニタリングを行っています。

こうしたモニタリングを通じて、環境変化に伴ってリスクが高まっている場合や、リスクアペタイトや戦略の実現に支障がある場合等は、リスクアペタイトや戦略の見直しも含めた適時・適切なアクションを検討・実施します。

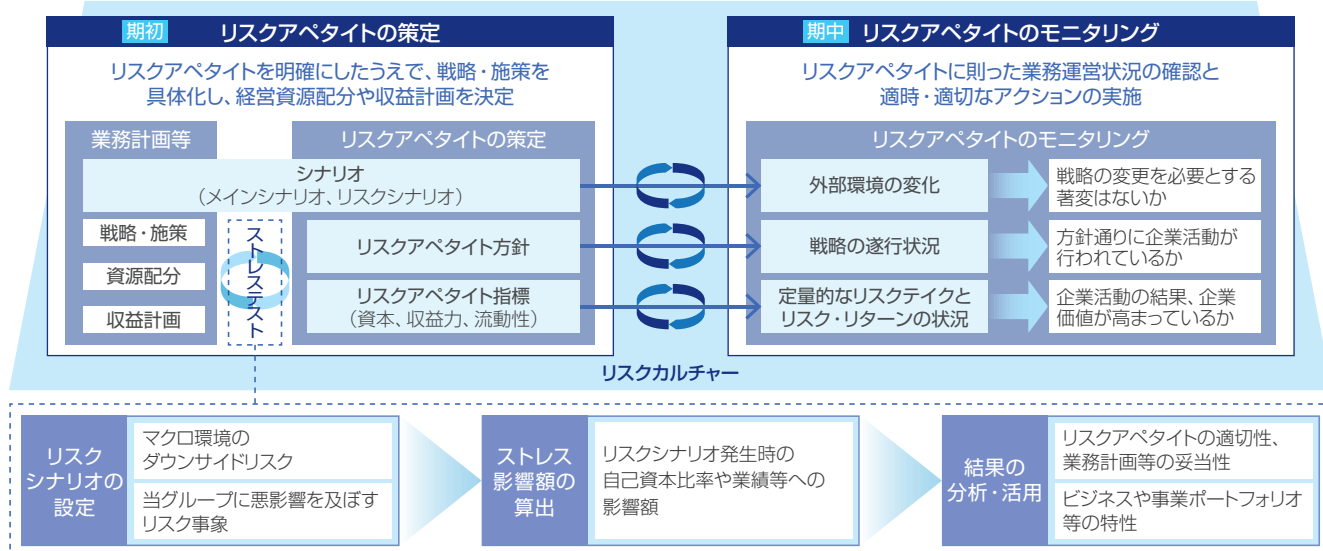
## ストレステストによるリスクアペタイトの検証

当グループでは、リスクアペタイトの適切性や業務計画等の妥当性を評価するために、設定したリスクシナリオが発生した場合の、自己資本比率や業績等への影響額を算出・評価するストレステストを実施しています。この結果を分析・検証し、リスクシナリオが発生した場合でも、必要な自己資本比率や業績等を確保できることを確認しています。

自己資本比率や業績等が必要な水準を下回る場合は、リスクアペタイトや業務計画等の見直しを検討・実施します。

また、ストレステストを通じて、当グループのビジネスや事業ポートフォリオ等の特性に関する理解を深め、リスクシナリオが発生した場合にとるべきアクションをあらかじめ定める等、リスクへの運営力を高める取り組みを実施しています。

〈みずほ〉のRAF運営プロセス



## 〈みずほ〉のリスクカルチャー

健全なリスクカルチャーとは、〈みずほ〉の役員・社員一人ひとりがリスクに対して高い見識を持って正しく判断・行動することであり、それはリスクアペタイトや戦略の実現、企業価値の維持・向上につながります。

〈みずほ〉は、役員・社員のリスクに対する感度を磨き、リスクへの適応力や対応力を高めるため、「リスクに関する行動指針」を制定し、研修等を通じて浸透を深めています。

本指針は、〈みずほ〉の役員・社員が、リスクに向き合う際に適切な価値観や行動軸を実現するための拠り所となるものです。役員・社員一人ひとりが、日々の業務のなかで判断に迷った場合等には本指針に立ち返ることで、リスクへの適応力や対応力が高まり、健全なリスクカルチャーが醸成されます。また、こうした取り組みは、結果的として役員・社員による不適切な行動を未然に防ぐことにもつながります。